

“森は海の恋人” 畠山 重篤 氏 講演

森林セラピーシンポジウム

「人の心に木を植える」

~The forest is longing for the sea, the sea is longing for the forest.~



開催日：令和2年2月8日（土）午後1時から午後3時（開場：午前12時30分）

会場：大子町文化福祉会館「まいん」文化ホール

このイベントは、
健康増進課の実施する
健康づくりポイント
事業の対象です。

森に学び，森に習い，森に生かされる。

大子町森林セラピー協議会は、大子町の8割を占める森林の保全や空間活用を一つのビジョンとして掲げ、森林セラピー事業の推進に取り組んでいます。

森林セラピーとは、森に入ると晴れたような心持ちになる“森林浴の効果”を用いて、『森の中で心身の健康増進を行う取組』を指します。そして、人を元気にする森の力を引き出すためには、森そのものが「健康であること」が大切といわれています。

そのため、今回は畠山重篤氏をお招きし、『健康な森がもたらす「森の力」』、そして、『森・川・海をつなぐ自然環境を活かした地域づくり』をテーマに講演会を開催します。

畠山氏は、宮城県気仙沼湾でカキの養殖をしながら、「森は海の恋人」をキャッチフレーズに、地元の漁師の方々と共に植林を行うユニークな活動で知られ、“森が海を育て、海が森を慕う”という意味で『森は海の恋人』という分かりやすい言葉で表現し、森林の保全活動や地域づくりを精力的に推進しています。

そして、畠山氏は代表著書の中で「山に木を植えることはもちろん大事ですが、もっとも大切なのは、『人の心に木を植える』ことなのです。」と話しています。今回はその「森の力」を引き出す畠山氏の取組やその真意に迫ります。



NPO 法人 森は海の恋人
理事長 畠山 重篤 氏

1943年中国・上海生まれ。宮城県でカキやホタテの養殖業を営む。海の環境を守るには海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることの大切さに気付く。漁師仲間と共に「牡蠣の森を慕う会」を結成。1989年より「森は海の恋人」を合い言葉に植林活動を続ける一方で子どもたちを海に招き、体験学習を行う。2005年から京都大学フィールド科学教育研究センター社会連携教授に就任。2009年にNPO法人森は海の恋人を設立。東日本大震災で牡蠣養施設の全て失うが、震災後には自然環境を活かした地域づくりを展開する。緑化推進功労者内閣総理大臣表彰（2003年）、国連森林フォーラム（UNFF）「フォレスト・ヒーローズ」受賞（2015年）など。



主催：大子町森林セラピー協議会（問合せ）事務局：大子町役場まちづくり課

電話：0295-72-1131 FAX：0295-72-1167 e-mail：shinrintherapy@town.daigo.lg.jp

